

SSK 群なんねん

群難連機関紙

新刊74号

編集人

群馬県難病団体連絡協議会

群馬県前橋市新前橋町13-12
群馬県社会福祉総合センター内
〒371-0843 TEL・FAX027-255-0035

《群難連ホームページアドレス》

<http://www.g-nanbyo.server-shared.com/>

署名を力に 国会へ！

＊ 医療・福祉・介護・年金等総合的対策の実現に向けた国会請願署名 ＊

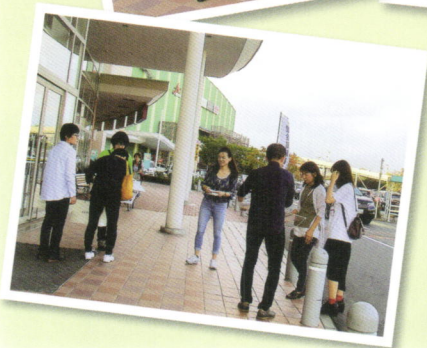


JPA(一社)日本難病・疾病団体協議会 全国いっせい街頭署名行動

九州付近にある台風が真夏の空気を呼び込み、汗ばむほどの陽気の10月6日。イオン高崎のご協力をいただき街頭署名行動、および「出前難病よろず相談室」を実施しました。群馬県医療ソーシャルワーカー協会7人、連合群馬6人、群難連から役員、理事他15人の総勢28人参加で行いました。

家族みんなで署名に協力してくれたり、署名をしながら熱心に質問したり話を聞いたりする方もおり、午後1時から約2時間の署名行動で489筆をいただきました。ご協力いただいた皆様に感謝するとともに、大切な署名を請願の実現に向けた力にさせていただきます。 〈星野〉

署名行動スナップ



街頭署名活動に参加して

群馬県医療ソーシャルワーカー協会
(グリーンライフ東日本株式会社入居相談センター)
岡田知一さん

季節外れの暑さの中、参加された皆様におかれましては、お疲れ様でした。本年度は、当協会より7名の会員が参加しました。我々ソーシャルワーカーにとって、ソーシャルアクションは重要な使命の一つです。「思いを行動に！」できる貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。

署名活動中は、市民の皆様から「暑いのにたいへんね」「頑張ってください」などの励ましのお言葉を頂戴しました。「私は難病だが、指定難病ではない。」とおっしゃる方もいらして、病と闘う多くの方のためにも活動が大切だと感じました。群難連をはじめとする皆様のこれまでの活動の成果に敬意を表するとともに、難病対策の更なる前進の為に皆様の声が国会に届くことを願ってやみません。

10月6日 署名活動に参加して

連合群馬女性委員 小川真希子さん

今回、初めて群馬県難病団体連絡協議会の皆様と署名活動に参加させていただきました。

これまで、私自身は難病の方が抱える様々な問題を知る機会がありませんでしたが、難病患者ご本人やご家族の方も署名活動に参加されており、当事者の方の声を聞き、難病患者の方々の現状を知る機会が持てたことは、福祉社会のあり方を考える良い機会となりました。

署名をしていただいた方の中には、知り合いに難病の方がおり、この活動に興味をもって質問をされる方や応援のお言葉をくださる方もいらっしゃいました。また、ご自身の体験を通して署名活動の意義を説明されるご家族の姿を見ると、切実な思いとともに他人事の問題ではないと感じました。誰もが安心して生活できる社会、どんな困難があろうと救いの手が差し伸べられる社会であることを願い、これらの活動が皆さまの希望に繋がることを応援しています。

群難連 活動促進セミナー 開催



群難連では昨年7月29日、県社会福祉総合センター会議室で活動促進セミナーを開催しました。第1部は水沼文男会長が患者会の必要性として「群難連の歴史（あゆみ）」をスライドで説明。出席した加盟団体会員へ先人が繋いできた45年の活動を次の世代へ繋いでほしいと話しました。第2部は群馬県障害政策課 支援調整係長 米沢孝明氏を講師に招き、『障害者総合支援法の概要』と題し話をうかがいました。多くの障害患者が自分に合った支援を受けるために、患者が市町村の窓口で「何をどのように申請手続きをすればいいのか」を丁寧に話されました。手続きが難しい、患者自身がもっと勉強しなければ、などの感想が寄せられました。

活動促進セミナー アンケートより

群難連の歴史・障害者支援法の概要について

■発足前の社会状況から現在に至るまでの流れや活動の内容が分かり、理解が深まった。支援法については少し難しかったと感じた■長い歴史があるのだと改めて感じた■群難連の歴史について今回初めて知ったが、長い期間活動されていることに感心した。会員数が減少しているとのことですが、これからも頑張ってください。障害者総合支援法については分かりやすい説明で、たいへん参考になった■どちらもたいへん簡潔で分かりやすかった。障害者も施設から追い出されようとしているように思えた■

ピア相談、活動促進セミナーなど多くの事業を行ってきたことを確認することができた。障害者総合支援法と題し話を聞かせてもらったが難しい。自分に当てはめたらと思うと？■障害者の範囲に難病患者も加わったということで、障害者総合支援法について学ぶことは勉強になりその理念には納得するが、65才以上の患者の家族としては介護保険法についての情報の方が欲しかった■以前は病気などを理由に差別を受けてきた患者が、長い時間をかけて少しずつ自分たちの普通の生活を行うための努力がわかった■会員数の減少に歯止めを掛けたいと感じた。障害者総合支援法は自分でもっと勉強しないと理解につながらない。雇用率に障害者手帳を持っている人が対象というのは、難病患者はどうなのか？

群難連事業に対しての要望など

■新しい会員の入会、新しい役員を選出などたいへんだが一般の会員の方にもいろいろ協力が大切なことと感じた■どうして会員が減っていくのか一言では言い表せないと思う。説明をお聞きするのもありがたいですが、私たち一人ひとりの役目を考えてほしい■資料は大きな文字にしてください



3市を訪問、見舞金制度など市長と意見交換

群難連では、平成30年度事業の一環として8月23日(木)に安中市と前橋市、8月30日(木)には太田市を訪問し、群難連の活動状況を説明するとともに、①難病患者に対する見舞金支給制度の改善要望、②「5月23日は難病の日」を地域社会に発信していくキャンペーンへの協力依頼など諸要望と意見交換を行ってまいりました。

安中市からスタート、茂木市長に面談

8月23日(木)10時、安中市役所を訪問し、茂木市長、保健福祉部の石田福祉課長に面談、群難連からは水沼会長、福田副会長、松田財務委員長の3人が出席しました。



茂木安中市長

群難連・水沼会長からは「指定難病見舞金制度」について、安中市は月額2,000円の支給を維持していただいていることへのお礼を申し上げ、継続をお願いしました。

また、安中市については特別賛助会員会費の30年度分協力をお願いしたいこと、そして、日本難病・疾病団体協議会(JPA)が制定した「5月23日は難病の日」について、今後実施予定のキャンペーン等への協力をお願いしました。

茂木市長からは、群難連の活動・運営についての理解ある発言、難病患者等弱者に対する理解ある姿勢が示されました。

また、障がい者などへの「ヘルプマーク」の着用促進とともに、安中市では「介護中」の首下げ札を市民に無償提供していることが話題となりました。



これは、例えば、男性の介助者が女性の患者・障がい者を女性トイレに誘導し介助するとき役に立つものであるとの説明がありました。

前橋市には、見舞金制度の改善を要望

8月23日(木)14時、前橋市保健所を訪問し、中西保健予防課長他3人の担当者に面談、群難連からは水沼会長、福田副会長、松田財務委員長が出席しました。



前橋市の担当者

水沼会長から、前橋市を含む県内13市町村において難病患者に対する見舞金支給が「1回限り」となっている現状を指摘し、「継続的な月額支給」の復活・改

善を強く要望しました。見舞金の月額支給は、仕事ができない患者にとって、また収入が僅かな年金のみといった患者にとって、本当に有難い収入源であることを切実に訴えました。

また、「一時金支給」への切り替え時、指定難病(数)の増加→受給者数の倍増→支給額の倍増→市町村財政の逼迫懸念がありましたが、実態的には331疾患となった現在でも、受給者数の増加は見られないどころか減少している状況(資料提示)を説明しました。これには「重症度分類」基準の厳しい適用という問題も考えられ、改善をお願いしました。

前橋市からは、財政状況が厳しいこと、40歳以上を対象に「検診の無料化」を実施し年間11億円の支出を行っていること、限られた財源の中で重点分野への配分、公平性、緊急性など優先事項を考えていかなければならない点などの説明があり、理解を求められました。群難連からの要望については市長に伝える旨が述べられました。

太田市清水市長にも改善を要望

8月30日(木)10時に太田市役所を訪問、清水聖義市長、障がい福祉課担当者に面談しました。群難連からは水沼会長、福田副会長、大澤事務局長、松田財務委員長の4人が出席しました。



清水太田市市長(右から2人目)

水沼会長から、太田市には難病法施行前の26年に訪問し清水市長にお会いいただいたこと、その後27年には、同市の見舞金支給制度が「1回限り」支給に変更され現在に至っていること、そして今回は、現在県内13市町村において「1回限り」の見舞金支給となっている現状を踏まえ、「継続的な月額支給」の復活・改善をお願いしたいことで訪問した主旨が述べました。指定難病(数)の増加に伴い懸念された市町村財政への負担拡大は、331疾患となった現在でも、受給者数の増加は見られずかえって減少していることも説明させていただきました。

清水市長からは、当時、財政負担の増加懸念ということもあったが、「見舞金なのだから1回限り」という考え方もあったこと、県内市町村の見舞金支給状況を見るとバラツキがあり、同じ難病患者でもどこに住むかによって格差が生じている状況であり、同じ県民なら「公平性」を考える必要性もあるといった発言がありました。

難病患者への見舞金の月額支給には、(復活するというような積極的な発言はなかったものの)一定の理解を示す姿勢は感じられました。方法論的には、市町村だけでなく県も同額程度を支給するという「連携」方式も検討する必要があるなどの意見もいただきました。(松田)



池田優子先生

9月29日(土)午後1時より県社会福祉総合センターにて、高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科長の池田優子先生をお迎えし『上手な相談の受け方』をテーマに講演していただきました。

「仲間同士の支えあい、効果的な聞き方を身につけよう、を軸に、先生がピアに惹かれた理由をご自身の経験をもとに解かりやすく説明していただきました。

患者会の存在が患者にとって、とても大切な存在であると共に患者の家族にとっても大切な情報交換の場でもあります。また、患者にとって病氣と折り合いをつけ、元気に生活していく力にもなります。

カウンセリングで大切なことは、批判的にならず、決めつけてはいけないそうです。また、設問調にならず、アドバイスではなく共感を示すことがとても大切です。相談者の話を勝手に解釈しないで、復唱してよく聞くことがとても必要です。相談者の思いと向き合うこと、相談者の思いと向きあいながら話し合うことが大事なことです。

話を聞いている中で、自分の表情や相談者との距離感など、相手に与える影響を考えることも大切なことだとわかりました。

そして参加者の自己紹介では、それぞれの病氣の状況など互いに共感できるのを感じました。

中でも、ロールプレイング*を通して相談者の気持ちと受け手側の気持ちを疑似体験することで、とても勉強になりました。



ロールプレイングの様子
最初は資料を見ながら…

不安な時は誰かが静かに話を聞いてくれるだけで気持ちが落ち着きます。そして、とて

も安心感が得られます。また、気持ちが安定すれば自分のことを自ら振り返り、気持ちを整理することができます。患者同士だからこそ話せることもあります。病氣を抱える患者同士が支えあいながら、病氣と共に自分らしく生活していくことができると確信する研修会でした。

〈瀧本〉



だんだん会話ははずみます

研修会参加者の感想（抜粋）

■先に聞く姿勢、傾聴が大切と改めて自覚できてたいへん良かった。また楽しむこともできた■期待していた通りの講義。慣れないながらもロールプレイングも参画意識を高められた■人は感情があるので、人間性をみがかないとつらい立場の人の話に耳を傾けられないのだと思った■患者会の必要性からお話しいただけて良かった。ピアサポートの原点だと思う。相談していくうえで改めて気付けたことがたくさんあった。自己紹介は必要ですネ。共感、傾聴になります■池田先生が初めてご自身の経験を話されたことで身近に感じられ、お話をよく理解できた。当会の相談に活かしていきたい■患者側、相談員として両面から考えることによって得られることがあった。多くの方と患者同士で支えあい、上手く相談に乗ってあげられればと思う■大切なことをたくさん教えていただいた。具体的な対応も教えていただき勉強になった■現在友達が入院中。時々行って話を聞いてきます。それだけでいいと友達が言います。頑張っているのに頑張れは言いません■患者会の活動を通して同じ病氣の会員さんから相談を受ける時、どう接したら良いのかとても勉強になった■先生のお話をご自分の体験から始まったのでとても聞きやすく分かりやすかった。患者になって3年半。お任せする、なるようになる、というより受け入れたと思った。進行性なのである程度は分かっているが、限りがあるので大事に生命を一生懸命花咲かせていきたい。「すべては本人が持っている」ということが納得です。相談を受けた時にはこれで行こうと教えられた■研修を受けて患者会の必要性、患者同士の関わり方など、病氣を告知されてから今までの生活の様子がレジュメの中に資料として載っているので発病した当初、治療の最中など「うなづける」内容でした

※ロールプレイング

研修手法のひとつ。役割演技法とも呼ばれる。現実に近い模擬場面を設定した上で、参加者に特定の役割りを演じさせ、習得した技能の完成度を計ったり、そこで起きる問題点や課題点に対する解決方法を考えさせる技法のこと

出前「難病よろず相談室」in高崎

10月14日（日）午後1時から高崎市総合福祉センターにて行われ、4人の来訪者がありました。群馬県東毛より是非相談したいとこの日を待っていたようです。

大きな病院に通院していても常に不安や疑問を抱えている患者さん…他の病院へ変わってみたい？薬の服用について？



<難病サロン>年3回 出前難病よろず相談室同時開催

前回開催の伊勢崎市に続き第2回『難病サロン』が開催され、気楽におしゃべり出来る場を設けました。みなさん、時には違った病気の方と思いのたけを話してみませんか？

不安がいっぱいでこんな時はどうしたらいいのか？病気の先輩が大勢います。難病患者が高齢の親の介護話、そんな話だっていいんです。

誰もがそう、そうと頷くばかり。思い当たることはみな同じなんですね。

帰りは笑顔で…

〈大澤〉

自民党政調懇談会を開催

10月17日（水）平成30年度自民党政調懇談会が井下泰伸議員の司会で開会しました。狩野浩志自民党幹事長の挨拶に始まり星野寛議員・井下議員の挨拶がありました。

次に群難連水沼会長の挨拶と各患者会（群馬県腎臓病患者連絡協議会・日本リウマチ友の会群馬県支部・全国膠原病友の会群馬県支部・群馬肝臓友の会・群馬脊柱靭帯骨化症友の会）の代表者から平成31年度の県当初予算に対する

重点要望事項について説明を行いました。

その後、各委員から患者会の要望事項について質問があり、特に狩野幹事長からは、ほとんどの項目について質問がありました。

「難病見舞金についてももう一度市町村にお願いをして欲しい」と県職員に話しをしていました。

ヘルプマークについても「どうして早くやらないのか」と職員に話をさせていただきました。県職員からも来年の導入は考えていて、現在ヘルプカードも検討中で県民の皆さんへ広報の仕方も考え中とのことでした。重度身心障害者医療費助成制度についても、「知り合いに障害者手帳を持っている社長さんがいて、高額所得者には負担をしていただくことも考えていかなければならない」と話していました。

群馬県の臓器移植コーディネーターについては、「早く見つけてください」と県職員に声をかけてくださいました。現在のコーディネーターの年齢の確認もしていました。

災害時の簡易式ベッドについては、県職員に確認をしていただき、東日本段ボール工業組合と協定を結んで災害時の対応するようにしていると回答がありました。

その他の項目についても県職員に質問をしていただきながらその場で回答の方向性を示していただきました。

今回の自民党政調懇談会は、平成31年度当初予算に対する重点要望のほとんどの要望について質問をして、問題点を県職員に確認をしていただきいつも20分位のところを約1時間程懇談を開催していただきました。

今後も今回のような自民党政調懇談会の開催をして欲しいと思いました。 〈水沼〉



東電労組と懇談会



群難連では8支援団体のうち毎年1団体ずつの懇談会を開いています。今年は「東京電力労働組合群馬地区本部」と10月30日（火）午後1時半から東電労組本部にて行いました。

東電労組からは萩原浩二執行委員長はじめ6人、群難連から水沼会長以下3人が出席しました。角田副会長の司会進行で萩原執行委員長、水沼会長のあいさつの後、出席者の自己紹介を行いました。

まず東電より、東電HDと分社化した基幹事業会社3社の組織体制について説明があり、群難連の組織体制や活動内容を福田副会長が説明をして意見交換に移りました。

このような場でしか聞けない電柱地中化の苦労話なども話題にのぼりました。国会請願署名活動、ヘルプマークについて社内での啓発をお願いしました。

ヘルプマークについて「東京都はじめ現在各道府県で導入されているが群馬県にあっても計画が進んでいる。一般の方々にも理解していただき支援をしてほしい」とヘルプマークを掲示しお願いしました。東電側からも「電車のシルバーシートのように乗客が混雑していても優先的に座れるよう広く社会に浸透されている。このヘルプマークも難病患者が支援を必要としていることを周囲に理解されないと意味がない。社会一般の方々に広く理解されるよう社内でも啓発していきたい」と署名活動同様心強いご協力の言葉をいただき有意義な懇談会となりました。

寄付御礼



萩原本部委員長（左）より

スズラン労働組合より本年も愛の募金活動よりご寄付の決定を受け10月22日（月）スズラン労働組合第37回本部定期大会へ出席しました。萩原洋本部委員長の挨拶のあと群難連を含む2団体が紹介され多大なご寄付をいただきました。

お礼の挨拶では群難連の紹介、5月23日が「難病の日」に登録された経緯もお話をさせていただき、日頃のご支援、国会請願署名へのご協力にも感謝を述べました。 〈福田〉

各会行事報告

療養医療講演会 みどり市笠懸公民館で開催
～リウマチの症状・治療はひとり一人違う!!～

《(公社) 日本リウマチ友の会群馬支部》



9月30日、台風24号が北上するなか、東邦病院 糖尿病リウマチ科 齊尾友望江先生を講師に「ライフサイクルを考えたリウマチ治療」と題し、講演会を開催しました。

講演は年代や病歴に合わせたリウマチの治療と患者一人ひとりが自分の治療目標を主治医と考えリウマチと向き合うことの大切さや、そのためには主治医とのコミュニケーションを取る必要性や患者自身が日常生活の中で出来ること

を教えてくださいました。また東邦病院におけるリウマチのチーム医療についても先生の指示のもと患者が安心して治療を受けられるように看護師はじめ病院スタッフと話せる時間を設けるなどの取り組みも話されました。

講演後は療養相談会として参加者全員が質問し丁寧に説明、回答していただきました。

台風を心配された出席予定者のキャンセルもあり少人数の講演会となりましたが、参加者からは齊尾先生の次回講演を希望する声がありました。
〈角田〉



伝わるころ つながる命 ～あなたの意思で助かる命があります～ 『臓器移植普及推進月間』

《群馬県腎臓病患者連絡協議会》

10月は『臓器移植普及推進月間』として全国各地で様々なイベントが開催されました。



10/6 館林高等看護学院「精美祭」

群馬県腎臓病患者連絡協議会では、9月から11月にかけて6カ所の地域のイベント等に参加して「臓器移植推進キャンペーン」を展開しました。

イベント会場では、健康保険証や運転免許証の裏面に掲載の「臓器提供意思表示」の記入方法や提供できる臓器のこと等についてテーブルを挟んでの対話形式で説明しています。

さらに、(公財)健康づくり財団の臓器移植推進室が大型商業施設4カ所の店頭で開催する

「臓器移植普及啓発街頭キャンペーン」にも参加し、チラシ等の配布を行いました。〈清水〉

会員の声

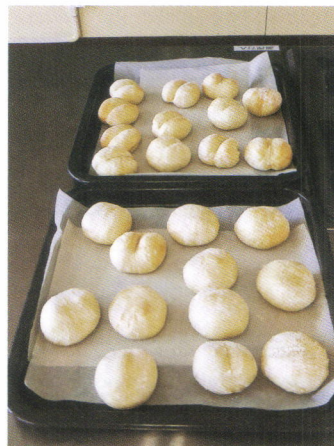
パン作り教室に参加して（8月28日開催）

〈桐生地域難病友の会 上林サク子〉

午前9時45分、「おはようございます」と挨拶をし、調理室に入っていくと山本会長、遠藤ミチ子先生のお二人がパン生地を作っていました。会員の皆様に焼き立ての美味しいパンを食べさせたいと思っていたのでしょ。1日の始まりに優しいお心に触れあえたこと、とっても嬉しかったです。

今日は頑張るぞ！そんな声はどこからか聞こえてきたような感じがしました。メモ用紙が置かれており細かい説明が書いてありました。10時、先生のお話があり、いよいよ本番のパン作りです。一言でパンと言いますがされどパン、たいへんな作業、何にも考えずに食べていたパンが人に力とやる気、楽しさを教えてくれるなんて夢にも思ってもいませんでした。

途中最初に作ったパンが焼きあがり、焼き立てのアツアツのパンの味、ホッペが落ちそうになる美味しさでした。忘れないうちに一度自分で挑戦してみます。パン生地を丸め空気を抜きたいへんな技ですが左手の平の上に丸めたパンを乗せ右手の5本指の先でコロコロ丸く空気を抜く至難のわざ、「習うより慣れろ」良く言ったものです。



終わりに参加者一同椅子に腰かけ、出来たてのパンと色々な野菜の入ったトマトスープ（絶品な美味）を味わいながらの歓談、新たな明日への希望をもらいました。とにかく楽しかった。

たです。遠藤先生ご指導有難うございました。
次回の開催が待ち遠しいです。



実りの秋を迎えて

〈T. F〉

10月下旬は稲刈りの真っ最中です。どの田んぼを見ても稲穂がたわわに実りたれ下がっています。農家にとってはこの時期は忙しいが最高の喜びです。コンバインでの刈取り、乾燥、もみすりと一緒に作業が続きます。



もみがらを取り除くとつやつやのお米が出てきて、手のひらで受けた時の感触は苦労がむくわれる思いです。

5月に種もみをまき、植え付けまで水を管理し成長を見守り、6月に田んぼへ植えつけです。田植え機が気持ち良く動いてくれ作業は進みます。

それからは刈り取り時期まで、水の調整、田の草取り、あぜの草刈りとたいへんな作業が続きます。秋には台風での倒伏を心配し、毎日のように田んぼへ行っていました。そしていよいよ刈り取りの時期へ向かっていきます。

理学療法士として患者会に関わって思うこと

〈高崎健康福祉大学保健医療学部理学療法学科 大野洋一〉

私は平成26年より全国パーキンソン病友の会群馬県支部の活動に参加させて頂き、理学療

法士の立場からリハビリテーションの紹介を行わせてもらい、一方で私の研究へのご協力を頂いています。

現在の高崎健康福祉大学に勤務する前、私は石川県にありますが大学病院で10年間、脳や神経の病気の患者様を中心に理学療法を行っていました。もちろん、難病の方にも関わらせていただきましたが、お恥ずかしいことに患者・家族の会の存在をほとんど知らなかったのが実情です。

話は変わりますが、私たち理学療法士（PT）をはじめ、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）は得意分野の違いはありますがリハビリテーションの専門家です。その得意分野の違いを知られていない部分もありますので簡単に紹介させていただきます。

理学療法士は「歩く」「立つ」など移動動作や基本動作に関するリハビリテーションを得意としています。作業療法士は「食べる」「服を着る」などの日常生活を営む上で必要となる動作のリハビリテーションを中心に行います。言語聴覚士は「話す」「飲み込む」など言葉と飲み込みのスペシャリストです。

2000年代からリハビリテーション職種の人数はその必要性から急増し、有資格者の累計数は2016年でPT13万人、OT8万人、ST2万7千人となりました。PTに至っては2000年には3万人でしたが16年の間に約4倍以上に増えていきます。また、世界的にもPTの数は第3位であり（1位：アメリカ 2位：ドイツ）、対人口比率でも日本は世界有数の理学療法士の多い国と言えます。このような現状のなか、患者会で活動していて気付くことは医療従事者、特に数が増えているはずのリハビリテーション関係職種の参加者がたいへん少ないことです。私からの提言として、是非、身の回りの医療従事者に皆さんの活動を紹介してみてください。きっと、皆さんと共に活動したい、何か協力したいと考えている人たちがたくさんいるはずですよ。何気ない一言が仲間を増やし、きっと活動の輪を大きく広げてくれると思います!!

アステラス製薬は

“患者会支援活動”に取り組んでいます。

患者会活動を側面から、幅広くお手伝いするため、

2006年4月より社会貢献活動として取り組んでいます。

・公募制活動資金助成 ・ピアサポート研修

詳しくはホームページで！キーワードで検索してください。

アステラス 患者会支援

検索

【お問合せ先】アステラス製薬 患者会支援担当 電話番号 03-3244-5110

明日は変えられる。



astellas

アステラス製薬

www.astellas.com/jp/

クロスワードパズル

タテ・ヨコのカギをヒントに空白を埋めて下さい。A～Hの8文字をつなぐと漢字4文字が完成されます。

1	2	3	4	5			
	E		B				7
6							F
		H		8			
9	10		11				
12			13	C		14	
	15	G		16			17
18			19	A			20
21						22	D

タテのカギ

- 「つる舞う形の群馬県」と言えば「——かるた」
- 「——は東に日は西に」
- 相撲の勝負を判定する人
- 海です。太平——、大西——
- 人口が多く、商工業・経済・文化・政治などの中心となる都市
- 南極と北極を結ぶ軸で、地球の公転軌道面に対して約66.5度の傾きを持ちます
- 結婚式の後に友人、知人を招いて——を行うのが一般的です
- 寒い時期の——は手荒れが気になります
- 「風が吹けば——屋が儲かる」
- ホテルではなく和風の宿泊施設
- 風邪の予防に、——、手洗い大事です！
- 最近ではお正月に——揚げもあまりしなくなりましたね
- 「匠の——」「裏——」

ヨコのカギ

- 群馬の元日の恒例行事。「全日本——対抗駅伝競走大会」
- 宴会などで行われる芸
- 暗やみの中に——の光が！
- 大根に唐辛子や人参を合わせておろしたもの
- 徳島県の観光スポット。鳴門の——潮
- めったにないこと。とてもめずらしいこと
- 「——に交われば赤くなる」
- タンパク質、糖質、脂質は三大——素です
- 上毛かるたの読み札のひとつ。「昔を語る——の古碑」
- “トーキョー・ベイ”って「東京——」のことですよね!?
- 石川県南部の旧国名。「——百万石」
- 古くから言い伝えられてきた、教訓または風刺の意味を含んだ短い言葉
- 毎日のお通じに大事なもののひとつ。食物——

〔応募要領〕

- ◆ハガキ裏面に答え、住所、氏名、電話番号を明記してください。
- ◆応募先＝群馬県難病団体連絡協議会（〒371-0843前橋市新前橋町13-12群馬県社会福祉総合センター4F）
- ◆締切＝平成31年4月1日（月）
- ◆正解者の中から抽選で4人の方に図書カードを贈呈いたします。

クロスワードパズル

73号の答え：「暑中見舞い」

ウ	ミ	ノ	ヒ		ハ	レ	マ
ム	カ	ウ		ク	ク		モ
ガ	タ		リ	ツ	シ	ユ	ウ
ヤ		ラ		キ	キ	メ	
ス	ク	ー	タ	ー		ゴ	テ
シ	ヨ	メ	イ		コ	コ	ン
	ク	ン	ヨ	ミ		チ	ト
チ	ヨ		ウ	リ	ニ		ウ



いつもたくさんのご応募をありがとうございます。正解者の中から厳正な抽選のうえ4人の方に図書カードをお送りしました。機関紙やクロスワードパズルへの感想など、一言いただくと励みになります。ご応募お待ちしております。

5月23日は「難病の日」。難病法が成立した5月23日を「難病の日」に登録。難病に思いを寄せる日。
「もしも私や家族が難病だったら」誰もが発症する可能性があり、他人ごとにはせず、患者や家族の思いを多くの人に知ってもらおう機会とするのが目的▼群馬連は「難病の日」を契機とした啓発活動を5月19日に開催予定▼社会一般の健康な人たちには難病なんて全く関係ないかも知れない。しかし、もしもしたらある日突然、自分や家族が難病になるかもしれない。我が事として思いを馳せてほしい▼もしも自分で自分たちの思いを……配慮を必要としている方のために「ヘルプマーク」の普及への取り組みを自民党政調懇談会を通して県へ要望し、社会一般の温かい支援や見守りへの周知をお願いした▼障害者雇用の問題で本来は対象外の職員を障害者に参入した不適切な事例が県210人水増し▼民間企業であれば法定雇用率に達成しなければペナルティーが発生。障害者雇用に率先して取り組むべき自治体の認識の低さ▼難病患者が公的機関や企業での雇用の働き掛けを要望しているが、難病患者雇用はどうなるのか、改めて問いたい。
（大澤 記）

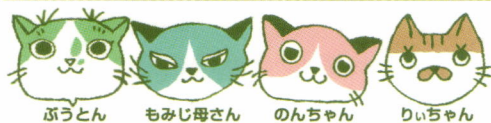
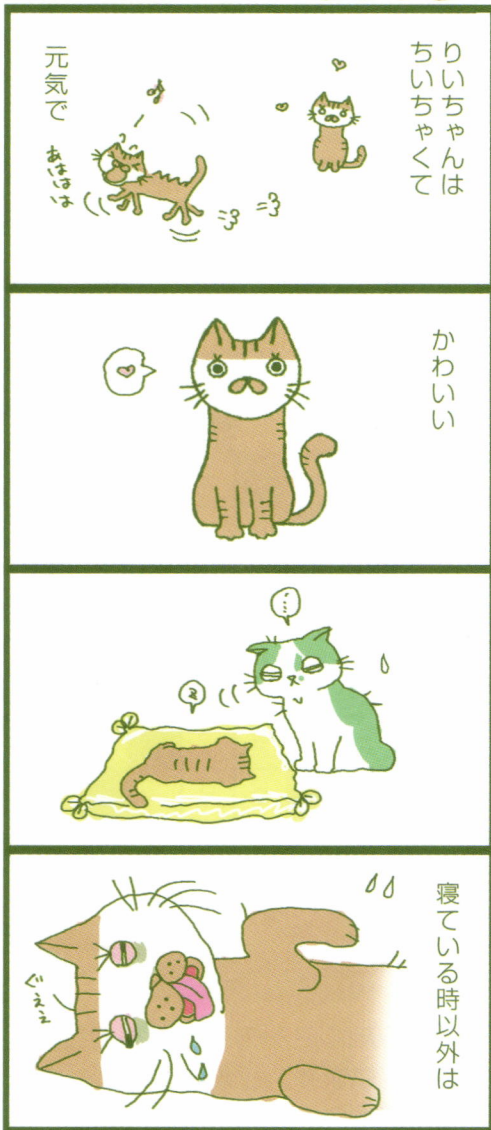
事務局 便り



編集人／前橋市新前橋町13-12 群馬県難病団体連絡協議会 TEL・FAX(027)255-0035
発行人／東京都世田谷区祖師谷3-1-17 ヴェルウッド祖師谷102号室 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価150円(会費を含む)

こねこのなるきⅡ No.12

驚愕の寝顔



難病よろず 電話相談室

難病患者の悩みや相談を、
難病患者の仲間が親切に応じます

毎月第2・第4日曜日
午後1時～午後4時
TEL 027-255-0035

個人の秘密は厳守します。
まずは、気軽にお電話を！

群難連加盟団体

- 群馬県腎臓病患者連絡協議会
- ベーチェット病友の会群馬県支部
- (公社)日本リウマチ友の会群馬支部
- 全国膠原病友の会群馬県支部
- 全国筋無力症友の会群馬県支部
- 群馬肝臓友の会
- つくしの会 (個人参加難病患者の会)
- 全国パーキンソン病友の会群馬県支部
- 群馬IBD友の会 (潰瘍性大腸炎・クローン病友の会)
- 群馬県脊柱靭帯骨化症友の会

機関紙編集委員の



先日、街頭署名運動に参加した。皆で声をかけても足早に通り過ぎていく人、チラッとこちらを見て目をそらす人、その中で私の声に足を止めてくれた家族がいた。笑顔のご主人と、赤ちゃんをおんぶしている奥様、小学校低学年くらいの男の子4人家族。すかさず「ぜひ、署名お願いします。」と、声をかけると快く署名してくれた。それを見ていた男の子が、「なに？」と、私に尋ねた。「病気になっても安心して暮らせるように国にお願いする為のものなの。」と、話すと、「僕も書いてみたい。」と、署名してくれた。はつきりとした文字が、頼もしく感じた。

親のすることを子供はよく見て真似るといいますが、子供たちが興味を持つことは、大切だと感じた。他人の事は、無関心な人が多い中今の子供たちが大きくなっても弱い立場の人を思いやる社会であってほしいと感じた。

〈瀧本〉